

1 「コロナ禍における国際学部の取り組み」 はじめに

国際学部学務委員長 重田康博

2020年新型コロナウイルス感染症の拡大によって、世界は未曾有の危機に陥った。コロナ感染症は、中国の武漢で発生し、日本を含めたアジア諸国から欧米諸国、アフリカ、ラテンアメリカまで拡大している。今回のコロナ感染の特徴は、発展途上諸国だけでなく、欧米諸国など先進国までに拡大した世界的なパンデミックであり、21世紀に入ってからの最大のグローバル感染症だといえる。2021年1月18日現在このコロナ感染症は一向に収まる気配はなく、この栃木県でも拡大している。

栃木県にある宇都宮大学も当然このコロナ・パンデミックにより大きな影響を受けた。このようなコロナ禍の中で、宇都宮大学国際学部がどのような取り組みをしたのかを記録しておくことは、本学や本国際学部にとっても将来の危機に備えるために意義のあることであると考え

た。コロナ感染拡大が一刻も早く収まることを祈りつつ、年報13号の本特集では「コロナ禍における国際学部の取り組み」を紹介する。

最初に、国際学部学務委員会から「学務委員会の学生支援の概要」（重田学務委員長）、「ピアサポートと学生支援団体による支援」（清水学務委員）、「学生生活アンケートの分析結果」（高橋学務副委員長）を報告し、次に教務委員会から「教務委員会の対応と課題」（米山教務委員長）、さらに入試委員会から「入試について（3年次編入試験・推薦入学試験）」（中村入試委員長）を報告し、続いて国際交流委員会から「国際交流委員会からの報告と課題」（柄木田国際交流委員長）、また国際学部同窓会から「同窓会による緊急給付金」（吉葉同窓会会長）、最後に佐々木国際学部学部長が「まとめ」を行った。